

# 生徒が発見し伝える歴博の魅力

## —中学生による見学用ワークシート作りの試み—

昭和学院中学校 神山 知徳

### 1. 実施学年及び教科・領域

中学校第1学年 社会科歴史的分野

### 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

#### (1) 主題名

歴博で発見した面白さを、ワークシートを作って伝えてみよう

#### (2) ねらい

『中学校学習指導要領解説 社会科編』では、社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなど、言語活動にかかわる学習を一層充実することを重視している。また「日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなどして具体的に学ぶことができるようにすること。」とも述べている。

そこで本実践では、言語活動にかかわる学習の場を博物館展示に求め、最終的に生徒自身の手による見学用ワークシート作りを目指す。そもそも博物館には、資料収集、整理保管、調査研究、教育普及の4つの機能がある。学芸員による資料の収集と綿密な調査・研究の成果が、展示を始めとする教育普及活動に結実することになるのである。その展示をより効果的に理解させる手段としてワークシートがあり、その前提には展示者による綿密な調査・研究活動がある。

果たして生徒にそのような調査・研究活動が可能であろうか。筆者は2010年度より次のような手順でワークシート作りを試みてきた。

- ① 歴博で作成したワークシートのうち、特に展示者の展示意図が明確に読み取ることができるものを選ぶ。
- ② これに取り組みせ、その解説を行う。
- ③ その上でワークシート作りのポイント<sup>註1</sup>を指導し、改めて展示物を観察させ、その読み解きを行わせる。
- ④ 読み解きの結果得られた情報をKJ法を用いて整理し、クイズ形式にしてワークシートを作成する。

ところがこれに二度三度取り組んでみても、結果は決して芳しくない。どうやっても、すでに歴博が作成したワークシートに似たり寄ったりのものになってしまう。その要因は何か。それは展示物に対する思い入れが浅く、読み解きが十分でなかつ

たからであろうと思われた。やはり研究者が行っている調査・研究活動を生徒に体験させなければ、自分なりの読み解きはできない。その学習過程を保障しなければ、生徒によるワークシート作りなどは到底叶わないことを痛感した。

そこで生徒が博物館展示を通じて調べ学習を行う手段として、本校図書館でここ数年取り組んでいる探究学習プログラムを活用していこうと考えた<sup>註2</sup>。その中心となるのが「マンダラチャート」（またはマンダラアート）と呼ばれるもので、選択したテーマから8つのアイデアを出し、発想を広げていく図のことである。具体的には次の指導計画の中で紹介するが、これによって自分のもっている知識を出しつくし、そのテーマに関して自分の知識がたりないところを確認するために利用する。

さらにこの調べ学習を通じて、生徒に次のような学習過程を体験させようとした。

- ① 一つのテーマに沿う形で展示物の読み解き、情報の収集を行わせる。
- ② 収集した情報を再構成させ、足りない情報をさらに補足させる。
- ③ 調べ学習の成果を一枚のシートにまとめさせる。その上で調べたことで改めて明確になったこと、もっと強調してみたいこと、さらに調べてみたいことなど、成果と課題の意識を持たせる。

上記の学習過程の①は事実認識、②は関係認識、③は意味認識の段階であり、それは歴史研究の過程とも重なる<sup>註3</sup>。こうして調べ学習を十分に行った上で、ワークシート作りに取り組ませたい。

### (3) 博物館との関連

本校は、歴博の最寄り駅である京成佐倉駅と同じ京成本線の京成八幡駅に近接し、来館型の実践が可能である。こうした地の利を生かして、長期休業中に希望者による実践を行った。今回は中学校第1学年を引率したため、既習範囲の常設展示（第1・第2展示室）と企画展示室（今回の場合は「時代を作った技—中世の生産革命—」）の展示物を丹念に観察し、展示物の面白さを体感させようとした。特に今回は、企画展示にあわせて、「モノ作り」あるいはモノそのものに注目するよう指導した。対応はすべて、教員が行った。

## 3. 指導計画（夏期休業中の1日間と冬期休業中の1日間の合計2日間）

初日（夏期休業中）

過程	時間	○学習活動      ●学習内容	□指導上の留意点      ■評価の観点
導入 (10分)	10分	○本時の進め方について説明を受ける。 ○展示物を撮影する際の注意点について説明を受ける。	□カメラの使用法（フラッシュを焚かない）、筆記用具は鉛筆のみ。 ■博物館資料の保護について配慮すべき点を理解し、実践できる。 〈観察：関〉
展開 (200分)	60分	○企画展示室のイントロダクションとして、現在100円ショップで	

	20分 (昼食) 90分	<p>手軽に買えるモノが、前近代ではどのように作られているかを考える。</p> <p>○企画展示室、第1展示室～第2展示室の展示物を、「モノ作り」、「モノ」というテーマに絞って見学する。</p> <p>○研修室に戻り、どのようなテーマで調べるかをワークシート①に記入する。さらにそれに関連する事柄について、関心に応じて記入する。</p> <p>○各自のテーマにしたがって、展示物を観察し、情報を得る。その内容をワークシート①に記載し、完成する。</p>	<p>□特に興味を持った展示物についてはメモを取り、写真を撮るよう指導する。</p> <p>■展示物をよく観察し、読み取ったことを記録している。〈ワークシート：技〉</p> <p>□企画展示室の展示物はすべて撮影不可であるため、展示図録を用意してもらい、生徒が閲覧できるようにする(2冊用意)。</p>
	30分	<p>○研修室に戻り、ワークシート②を作成する。必要に応じて方眼紙にスケッチをとり、ワークシート②にしたがって一枚の画用紙に調べ学習の内容をまとめる(作品A)。</p>	<p>■関心に従って必要な情報を選択し、構成する。〈ワークシート：思〉</p>
まとめ (10分)	10分	<p>○ワークシート③を記入して、「特に他の人に知らせたい、わかってもらいたいこと」、「さらに疑問に思うこと、調べる必要があること」を明確にさせる。</p> <p>○完成した作品(作品A)は夏休み明けに提出するよう伝える。</p>	<p>□途中で作成したワークシート類もすべて提出。</p> <p>■成果と課題を明確にする。〈ワークシート：思〉</p> <p>□「夏の自由研究は、これをさらに深める形で行うとよい。」とアドバイスする。</p>

2日目(冬期休業中)

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入 (10分)	10分	<p>○本時の進め方について説明を受ける。</p> <p>○展示物を撮影する際の注意点について説明を受ける。</p>	<p>□カメラの使用方法(フラッシュを焚かない)、筆記用具は鉛筆のみ。</p>
展開 (220分)	20分	<p>○研修室で、8月に参加した生徒の作品(作品A)を取り上げ、特にどのような点を重要だと考え、人に伝えたいと</p>	<p>■発表を行ったり、聞いたりすることで情報を共有し、自分の課題として取り込むことが出来る。〈ワークシー</p>

	60分	<p>思ったかを発表する。またもっと調べてみたいと思ったことなども発表する。それを聞いて、どう思ったかコメントを受ける。</p> <p>○他にどのような面白いことがあるか、第2展示室を中心に、展示解説を受ける。</p> <p>○「歴博見学用のワークシートを自分で作ってみよう」を用いて、博物館とはどのようなところか（特に学校のカリキュラムとの違いの強調）の説明を受ける。</p>	<p>ト：技）</p> <p>■展示解説をよく理解し、自らもそのポイントを指摘できる。〈観察：理〉</p> <p>□ワークシートは、展示物に込められたメッセージを読み取ることをスムーズにするためのものであって、ただのクイズではないことを強く認識させる。</p>
	60分	<p>○「歴博で面白いものをさがそう」8月に作成した作品（作品A）を踏まえて、興味深いことが読み取れそうな展示物を、デジカメで撮影する。その展示物を方眼紙にスケッチに取り、色鉛筆で着色する。それを「本日の課題その1」の中央に貼る。</p>	<p>■展示用ワークシートの作成方法について、その主旨を理解できる。〈観察：理〉</p> <p>□特に興味を持った展示物についてはメモを取り、写真を撮るよう指導する。</p> <p>■展示物を注意深く観察することができる。〈観察：関〉</p>
	80分	<p>○そこから読み取れる内容とその周辺に書き出し、左上にタイトル、右下にその他気づいたことなどを書き出す。</p> <p>○「本日の課題その1」の進行状況のチェックを受け、「本日の課題その2 歴博ワークシートを作ろう」（作品B）を作成する。</p>	<p>□同じ中学生を対象にしたワークシートを作ることをイメージさせる。</p> <p>■展示物から読み取れる事柄を適切に表現することが出来る。</p> <p>〈ワークシート：技〉</p> <p>□8月に作成した作品Aの成果を踏まえて、分かってもらいたいことが十分に伝わる内容になっているか検討する。</p>
まとめ (10分)	10分	<p>○ワークシート（作品B）のチェックを受ける。家庭で清書を行う。</p>	<p>□質問は適当か、解答は正しいか、あなたが博物館来館者に知ってもらいたいポイントが十分に伝わる内容になっているかなど。</p> <p>■特に興味を持った展示物の読み解きをしっかりと行い、特に最も重要だと考えた内容を他の人に上手く伝えることができている。</p> <p>〈ワークシート：技〉</p>

#### 4. 実践の概要

本実践は、平成 25 年 8 月 7 日（水）と平成 26 年 1 月 7 日（火）の 2 日間にわたって、歴博で行った。参加者は両日とも中学校第 1 学年で、初日が男子 2 名、女子 5 名、2 日目が初回の参加者のうちの 4 名で、男子 1 名、女子 3 名である。

初日は、企画展示「時代を作った技—中世の生産革命—」の会期中であった。企画展示室入口付近に設置されたイントロダクションのコーナー（「くらべてみよう中世・現代」）で、バケツやお椀、扇子など、現在 100 円ショップで手軽に買える物が、前近代ではどのように作られていたかを、実際に手にとって考えさせた。引き続き企画展示の展示解説に入り、モノに注目しながら第 1・第 2 展示室を見学させた。なおその際は、特に興味を持った展示物のメモを取り、写真を撮るように指導した（フラッシュ禁止。ただし企画展示室は全面的に写真撮影禁止なので、展示図録をあらかじめ用意した）。



効果的なイントロダクション

その後研修室で、どのようなテーマで調べるかを、ワークシート①に記入させ、それに関連する事柄について、周囲の 8 マスに記入させた。さらに周囲のマスに記載した事柄について、関連する事項を書き出し、わからないことがあれば再び展示室に行って調べるよう指示した。

次にワークシート②でキーワードツリーを作り、必要な情報を取捨選択して全体の構成を考えさせた。また特に取り上げる展示物のスケッチを作成し、ワークシート②に従って一枚の画用紙に調べ学習の内容をまとめさせた（作品 A 参照。この段階では下書き。テーマは漆、ガラス製品、井戸、大工道具など）。

さらに作品 A を作成して、「特に他の人に知らせたい、わかってもらいたいこと」「さらに疑問に思うこと、調べる必要があること」を、ワークシート③に記入して明確に意識づけさせようとした。最後にこの内容を深めてもらうために、夏の自由研究のテーマとして、今回着目した展示物について研究することを奨めた。

夏期休業が終わり、生徒から作品 A を回収し、それを元に冬期休業中の 1 月 7 日（火）に 2 日目の実践を行った。

前回作成した作品 A とワークシート③を使って、研修室で簡単な発表会を行った。その際は、特にどのような点が重要だと考え、人に伝えたいと思ったかを発表させ、疑問や意見があれば、お互いにそれを伝えて、情報を共有させた。



発表の様子

その後第 2 展示室に移動し、主要な展示物の展示解説を行い、展示を見るポイントを伝えた。その場でワークシート作成の手引きである「歴博見学用のワークシートを自分

で作ってみよう」を用いて、博物館とはどのような場所か、特に学校のカリキュラムとの違いについて説明した。今回の場合は、室町時代の京都のレプリカを題材に、ワークシートの一事例を示した。このようにワークシートの意味について一応理解させた後、作品Aやワークシート③を踏まえて、特に興味深いことが読み取れそうな展示物を、デジカメで撮影させた。

研修室に戻り、特に興味深いことが読み取れそうな展示物を方眼紙に1～2つほどスケッチに取らせ、色鉛筆で着色させた。それを「本日の課題その1」の中央に貼り、そこから読み取れる内容をその周辺に書き出させた。その状況をチェックし、「本日の課題その2」で展示用ワークシートの作成（作品B）に入らせた。なおその際は、8月に作成した作品Aの成果と反省を踏まえ、分かってもらいたいことが十分に伝わる内容になっているか検討させた。残りの作業（清書）は家庭で行わせ、学校で回収した。

## 5. 成果と課題

今回の作業は、過去3年間の反省を踏まえて十分に検討した上で実施に移した。しかし、展示の主旨を理解し、調べ学習を行うだけでもかなりの労力を必要とした。そのため、これをより深めさせるきっかけとして、夏休みの自由研究のテーマに奨めたりもした。結局形になったのは最初の7名中2名であり、その他は調べ学習で精一杯であったようで、結果としてはかなりハードルの高い実践になってしまった。

それでも調べ学習を行うだけでも、子どもたちの歴史認識には大きな深まりをもたらしたのではないだろうか。まずワークシート①の作業で、展示物をつぶさに観察することで事実認識が深まっていった。例えば「うるし製品」をテーマとした生徒は、展示物から、漆の役割や使用方法、漆器の種類、職人の仕事などに気づき（ワークシート①）、そこから得られた新たな知識をワークシート②で整理し、作品Aのような形でまとめた。さらにワークシート③で、漆の役割や塗り方に注目し、それを調べるために、漆を塗る理由や起源、漆の種類などについてもっと深めて調べていこうと考えた（関係認識）。この段階で得られた情報を取捨選択し、それぞれの情報を繋げていく作業を行った。その多くの情報の中から、漆器には海外でも工芸品として高く評価された蒔絵があったことや、一般庶民も使用できるようにした普及漆器の製法などを紹介するためのワークシート（作品B）を作成した。これは、漆器が日本人の生活の中で、なくてはならないものになっていったことを端的に示す好事例であり、そのことをこの作品Bの作成を通じて深く認識したのである（意味認識）。また第6展示室の軍隊展示を観察した生徒は、軍隊生活の様子を絵葉書で学び（事実認識）、そこでの日課を現在の学校生活と対比させて、レポートにまとめた（関係認識）。

残念ながら、今回このようにワークシート作りまで漕ぎ着けた生徒は少数に止まった。しかし今後は、より多くの生徒が深い歴史認識に至ることができるよう、この実践の改良を図っていきたい。博物館展示は、このような示唆に満ちた資料に溢れているのであるから、それを読み解く力をつける格好の場であることは間違いない。



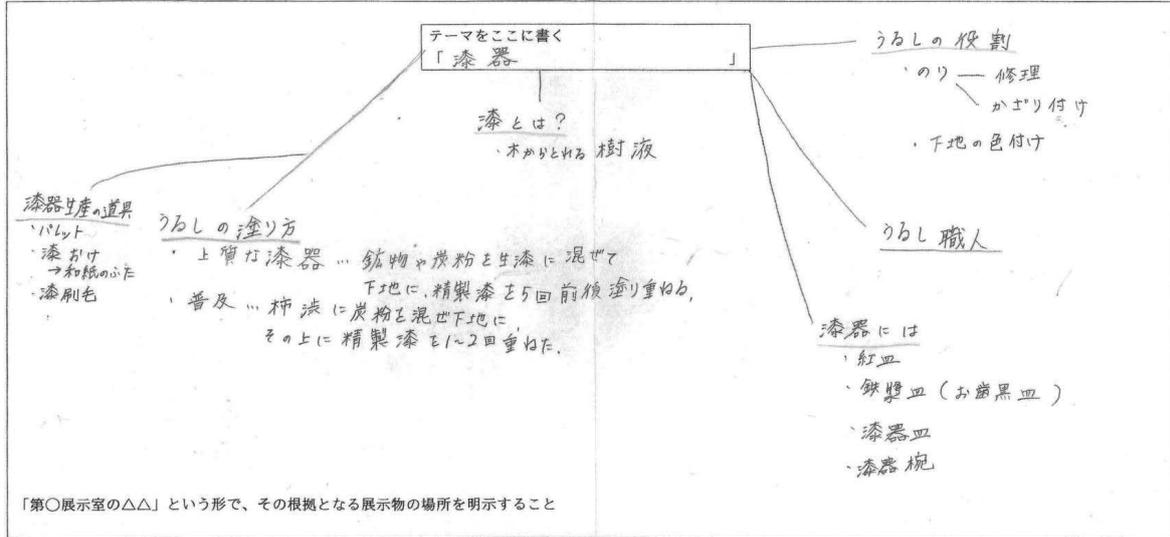
〔初日使用のワークシート②〕 ※実際のサイズはB4判

ワークシート②

1年 組

キーワードツリーを作ろう！

☆実際に自分が集めたキーワードを使って、キーワードツリーを作ろう。  
 (キーワードは全部使う必要はありません。また必要に応じてキーワードを新しく探して加えていくこともできます。)



〔初日使用のワークシート③〕

ワークシート③

1年 組

<p>① 今回の調べ学習で、重要だと思ったことは何ですか。特に「他の人に知らせたい、わかってもらいたい。」と思うことは何ですか。</p> <p>・ 漆の役割</p> <p>・ 塗り方</p>	<p>他の人たちのコメント</p>
<p>② 今回の調べ学習でさらに疑問に思うこと、調べる必要があることは何ですか。</p> <p>・ 漆を塗る理由</p> <p>・ いつが便利れているか</p> <p>・ 漆の種類</p>	<p>他の人たちのコメント</p>

# [初日作成の作品A]

～ 漆器 ～

## 1. 漆

ウルシ科の落葉高木の樹液。  
 生漆・透漆・黒漆のまに3つに分けられる。  
 生漆は、漆の木から採集した原液から  
 ゴミ等を取り除いた無精製のもの。  
 下地や仕上げに使う。  
 透漆は、生漆に含まれる水分を蒸発させた鉛色の漆。  
 金粉などをきれいに混ぜ、光沢に優れる。  
 黒漆は、鉄分を加え、真黒に化学変化させた漆。  
 仕上げに使う本黒漆や石研ぎ出しの黒色漆などが黒漆。  
 他にも、漆に顔料を混ぜて作り出した彩漆などがある。

## 2. 特徴

漆は固まると、薬品類や高熱にも耐える強靱な  
 塗膜を作る。  
 また、大きな接着力があるので、接着剤として使われる。  
 耐久性にも優れていて、にわか耐久性も大きく上回る。  
 漆には、抗菌力と防腐力もあるので、漆を塗ったものは、  
 長持ちする。また、美しいつやが出て、水をはじくようにもなる。  
 しかし、漆は、乾燥するのが遅く、設備もいる。  
 温度や湿度、水を加えるなどをして、調節もできるが、  
 ペンキ等に比べれば、とても遅い。  
 また、紫外線には、弱く、屋外塗装には不向き。  
 鉄分に反応し、黒く変色する。

## 3. 漆器生産

古代国家崩壊とともに、塗師や轆轤師などの  
 工人は自立の道を求めて、各地の富豪層や寺院との結びつきを  
 強め、新たな中世的漆器生産が開始された。  
 11～12世紀にかけて材料や工程を大幅に省略した  
 炭粉法下地の食漆器が出現する。  
 木地も安価なブナやトナリなどが多様なものが選択された。  
 黒色漆地の器体には漆絵が施され、これまでの食器に  
 なかった華やかさのとなり、価格も10文程度だった。だが、  
 需要は急速に拡大していった。  
 11～12世紀にかけて上質品・漆下地漆器から、  
 普及品・漆下地漆器に漆器の種類が変わった。  
 漆下地(木地は高価なワケギ材)は、口縁部に  
 布を貼って補強し、動物粒子や炭粉粒子を生漆に混ぜて  
 下地とする。さらに精製漆を5回前後塗り重ねて  
 じょうぶなものとする。朱漆塗りでも無文の高級品が多い。  
 漆下地(木地は安価なブナ材など)は布法(生漆)に  
 炭粉粒子を混ぜ下地とし、その上に1～2回塗り重ねたもの。  
 材料や工程を省略した安価なため、漆器の  
 普及に果たした役割は大きい。普及漆器(漆下地)

# [ワークシート作成の手引き「歴博見学用のワークシートを自分で作ってみよう」]

## 歴博見学用のワークシートを自分で作ってみよう

昭和学院中学校社会科 神山

本日の作業

### ① 博物館というところはどんなところか。

- ・教科書のような決まったカリキュラムはない。
- ・博物館に行くかどうかは本人の自由意志。
- ・基本的に自分の自分のペースで自由に読み取っていく。展示物と「対話」する。
- ・しかし展示物は意味もなく並べてあるわけではない。展示物と「対話」して何を読み取るかが重要。

→それをスムーズに行うための教材としてのワークシート。ただのクイズではない。

### ② 本日の課題(その1)をやってみる。

### ③ 本日の課題(その2)をやってみる。

### ④ ワークシートの作り方のガイダンス。

- ・「歴博見学用のワークシートを自分で作ってみよう」の作り方のヒント。
- ・目に見えてわかりやすいことから入る。展示物をじっくりと観察させる。
- ・当時の人々の生活や暮らしの様子など、具体的なことがらを理解させる。
- ・できれば、現代の生活につながることはないか、逆に全く違う点はどこかという見方ができるかどうか追求したい。

以上

[ 2日目使用のワークシートその1 ]

中1本日の課題 (その1)

- ※① 色々なことが読み取れる最も魅力ある展示物1・2点を方眼紙にスケッチに取り、それを色鉛筆で着色して、この用紙に貼り付けなさい。
- ② 読み取れる内容をその周辺に書き出し、左上にタイトル、右下にその他気づいたことなどまとめを書きなさい。



とんぼ まきえぐら  
蜻蛉 蒔絵 金登

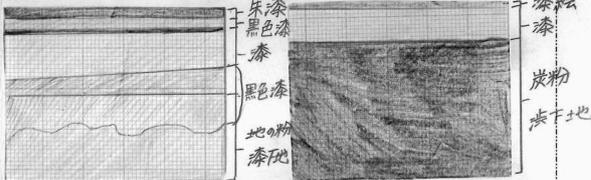
全体を黒漆塗とし、  
全体に金蒔絵で武器や馬具の  
意匠に好まれた蜻蛉の文様を  
散らしていく。

⇒ 漆を塗り、黒や赤の色にして、  
つやをだす。  
また、金蒔絵で絵を描くとき、  
接着剤として、利用する。

かじゅうしかどりまきえ りでんよりなつ  
花樹鹿虎 蒔絵 螺鈿 洋櫃

平蒔絵と螺鈿の技法を用いて、  
櫃や抽斗付の書篋等を輸出した。  
幾何学文や花鳥文をびっしり描くのが特徴。  
西洋では「ジャパン japan」と呼ばれ、珍重された。  
また宣教師に注文されて作ったものもある。

上質 漆器 (漆下地)      普及 漆器 (渋下地)



11~12世紀にかけて材料や工程を大幅に  
省略した炭粉渋下地の食漆器が出現。  
木地も安価なものに漆絵を施した。  
これまでより華やかなものとなり、価格も  
10文程度だったため、需要は急速に拡大。  
上質漆器は、補強をしたり、精製漆を  
塗り重ねて、じゅうぶなものとしていた。

⇒ 渋下地などの安価格の漆器の出現に  
より、漆器は普及していった。

1年 組 番

[ 2日目作成のワークシートその② (作品B) ]

中1本日の課題 (その2)

- ※① 1月7日の作業で作成したシートをもとに、展示物を1・2点程度取り上げ、写真かスケッチを貼り付けて下さい。
- ② それぞれの展示物についての質問を作り、模範解答をこのシートの右側に書いてください (対象は中学生)。

歴博ワークシートを作ろう

タイトル

漆工芸 つくられたもの



花樹草花蒔絵螺鈿洋櫃

これは、平蒔絵と螺鈿の技法を用いて  
作られたものです。  
幾何学文や花鳥文がびっしり描かれています。

1. これは何のためにつくられたでしょう？

11~12世紀にかけて  
10文程度の安価な  
普及漆器が出現しました。

2. 上質漆器と普及漆器  
のちがいはなんでしょう？

1年 組 番

[模範解答]

- 西洋に輸出  
するため。  
西洋では  
「ジャパン japan」  
と呼ばれ、  
珍重された。
- 上質な漆器に  
比べて、  
普及漆器は、  
材料や工程を  
大幅に省略した  
漆器。  
そのため、  
安価格で普及  
していった。